



掛川三城

ものがたり

戦国武将たちが
激しい攻防を繰り広げた
歴史に名を残す城郭



東海の名城

掛川城

難攻不落の城

高天神城

玉石積みめの石垣

横須賀城

THREE CASTLES OF KAKEGAWA



掛川城
◆東名掛川IC→車で約10分
◆掛川駅→徒歩で約7分

高天神城跡
◆東名掛川IC→車で約15分
◆掛川駅→バスで約24分
(土下方車→徒歩で約15分)

横須賀城跡
◆東名掛川IC→車で約30分
◆袋井駅→バスで約30分
(七軒町下車→徒歩で約5分)

問合せ 掛川観光協会ビジターセンター
「旅のスイッチ」
〒436-0029 静岡県掛川市南1-1-1
TEL.0537-24-8711
<http://www.kakegawa-kankou.com>

制作 ☆ 掛川市観光・シティプロモーション課
〒436-8650 静岡県掛川市長谷1-1-1
TEL.0537-21-1121
<http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp>

新幹線
名古屋 約1時間 掛川駅 約1時間30分 東京

東名高速道路
名古屋 約1時間30分 掛川IC 約2時間40分 東京

動画公開中
歴史に名を残す三城に秘められた物語をぜひご覧ください。

掛川城

天守閣
御殿

武将たちの覇権争い
遠江支配の拠点

掛川城より東に五〇〇mほどのところにあった掛川古城は、戦国時代の文明年間(二四六九〜八六)頃、駿河の守護大名今川氏が遠江支配の拠点として重臣朝比奈泰濃に築かせたと言われています。その後、遠江における今川氏の勢力拡大に伴い、掛川古城では手狭となり、十六世紀初頭に現在の地に掛川城が築かれました。

永禄三年、桶狭間の戦いで今川義元が織田信長に討たれると、永禄十一年、義元の子氏真は甲斐の武田氏に駿河を追われ、掛川城に立てこもりました。翌年、徳川家康は掛川城を攻め、長期に渡る攻防の末和睦により開城させました。家康領有後、重臣石川家成が入城し、武田氏侵攻に対する防衛の拠点となりました。天正十八年、全国平定を達成した豊臣秀吉は、徳川家康を関東へ移すと、家康の旧領地に秀吉配下の大名を配置し、掛川城には山内一豊が入りました。一豊は城の拡張や城下の整備を行うとともに、掛川城に初めて天守閣をつくりました。



遠州掛川城絵図(国立国会図書館蔵)

見性院
(高知県立高知城歴史博物館所蔵)



日本初の
木造復元天守閣

貴族的な外観をもつことから「東海の名城」と謳われた掛川城天守閣は、外観三層、内部四層から成ります。六間×五間(約二二m×二〇m)の天守閣本体は、決して大きいものではありませんが、東西に張り出し部を設けたり、入り口に付櫓(つけやぐら)を設けたりして外観を大きく、複雑に見せています。一階、二階に比べ四階の望楼部が極端に小さいのは、殿舎の上に物見のための望楼を載せた出現期の天守閣のなごりといえます。白漆喰塗り籠めの真つ白な外容は、京都聚楽第の建物に、黒塗りの廻縁・高欄は大阪城天守閣にならったと考えられます。嘉永七年、安政の東海大地震により天守閣など大半が損壊し、再建されることなく明治維新を迎えましたが、掛川市民の熱意と努力が身を結び、平成六年に一四〇年ぶりに木造で再建され、再び美しい姿を現しました。



山内一豊
(高知県立高知城歴史博物館所蔵)

DATA	
城の種類	平山城
築城時期	16世紀初頭
築城者	朝比奈泰濃
主要城主	朝比奈氏、石川氏、山内氏、北条氏、太田氏他
遺構	曲輪、石垣、土塁、水堀、太鼓櫓、二の丸御殿、他

日本初の木造復元天守閣。
歴史に思いを馳せてみませんか。



日本100名城に認定 スタンプ設置場所：掛川城御殿(9:00~17:00年中無休)

全国でも希少な
現存する城郭御殿

掛川城御殿は、儀式・公式対面などの藩の公的式典の場、藩主の公邸、藩内の政務をつかさどる役所という三つの機能を合わせ持った施設です。掛川城御殿は二の丸に建てられた江戸時代後期の建物で、現存する城郭御殿としては、京都二条城など全国で四箇所しかない貴重な建築物です。

書院造りと呼ばれる建築様式で、畳を敷き詰めた多くの部屋が連なり、各部屋は襖で仕切られています。当初は本丸にも御殿が作られました。老朽化したり災害にあつて、二の丸に移りました。

その後、江戸時代の藩の政治や大名の生活が偲ばれる貴重な建物として、昭和四十七年から五十年まで保存修理が実施され、昭和五十五年一月二十六日、国の重要文化財に指定されました。



御殿 三の間



太鼓櫓



御殿 長囲炉裏の間・天井



四足門



大手門



霧噴き井戸



大手門番所



龍華院大猷院霊屋



掛川城御殿(二の丸御殿)

高天神城跡

難攻不落の名城

高天神城は、小笠山から南東にのびる尾根の先端、標高三三メートルの鶴翁山を中心に造られた山城です。東側の田園地帯から南側の遠州灘まで見渡すことができ、小笠山の北を通る東海道を牽制できる立地条件にある重要な城であったため、徳川と武田が争奪戦を繰り広げました。

眼下には、下小笠川などの中小の河川が流れ、天然の堀を成し、尾根は三方が断崖絶壁。二方が尾根続きという天然の要害であり、「難攻不落の名城」と呼ばれていました。高天神城の築城は、室町時代、今川氏が守護大名から戦国大名に成長する過程で築かれたとする説が有力であると言われています。

高天神を制する者

今川氏の滅亡後徳川家康の持ち城となり、小笠原氏助(長忠)が引き続き城主となりました。一五七四年(天正二年)、武田信玄の息子・勝頼が二万の大軍で攻め、開城させました。しかし、翌天正三年の「長篠の合戦」で、織田・徳川連合軍に大敗した武田氏は、その後、衰退。横須賀城を拠点とした家康が高天神城の奪還に成功しました。



高天神城跡 ハイキングマップ

歴史と自然の息吹を感じながら、緑深き古戦場をゆっくり歩いてみませんか。



- ⑦ 高天神社
高天神社は、城が廃城となるまで城中守護の神社でした。約290年前に御前曲輪跡から現在の場所に移されました。
- ② 堀切
敵の侵入を防ぐための堀切で、幅約9m、深さ約6mあります。掘底から橋脚跡と考えられる穴が発見されていて、木の橋が架けられていたと考えられます。
- ③ かな井戸
ここに深井戸を掘って、籠城中の露命を繋ぎました。天正2年の勝頼率いる武田勢の猛進を必死の防戦に努めた場所と伝わります。
- ④ 馬場平
かつては城の南側を見張るための番屋があったところと考えられます。現在は展望台があり、遠州灘が一望できる絶景の場所です。
- ⑤ 搦手門 (からめてもん)
高天神城の北側の入口です。元亀2年の信玄の高天神城攻めの時には250人が守備したところと伝わります。



⑥ 大河内石窟
天正2年の開城時に、最後まで武田勝頼に降伏しなかった大河内源三郎政局が7年に渡って幽閉された石窟。



⑧ 千人塚
天正9年、徳川勢の陣に打って出て討死した武田勢の城兵多数を埋葬した塚。小笠原のたもとにあります。



⑦ 三日月井戸
三日月状の井戸で、城の守りには欠かせない貴重な飲料水でした。



高天神社例大祭

高天神社例大祭

高天神社はかつて高天神城を守護する神社でした。この祭りは毎年三月最終の日曜日に神様が里帰りされる行事として行なわれていきます。神楽の奉納や神輿渡御行列などの神事が厳かに執り行なわれ、桜の見頃と重なることから毎年多くの見物人でにぎわいます。

DATA	
城の種別	山城
築城時期	15世紀後半
築城者	不明
主要城主	福島氏、小笠原氏、岡部氏
遺構	曲輪、土塁、空堀、堀切、井戸、石牢他



武田勝頼(法泉寺所蔵)

続日本100名城に認定

スタンプ設置場所

大東北公民館(静岡県掛川市下土方267-1/9:00~17:00 月曜・年末年始休館)
 ※月曜日のみ下記施設にてスタンプ設置
 ・掛川観光協会ビジターセンター「旅のスイッチ」(静岡県掛川市南一丁目1番1号/9:00~17:00 年末年始休業)
 ・掛川南部観光案内処(静岡県掛川市西大淵4334番地/9:00~16:00 水・木・年末年始休業)

横須賀城跡



自然石を積んだ「玉石積み」
歴史の面影を探してみませんか。

遠州制覇を夢みた 家康・信玄・勝頼

横須賀城は、山城と平城を合わせた持つた、平山城と呼ばれ、近世の政治の場としての面もあることから、二重の城郭要素を持つていると言われています。横須賀城を築ききつかけは徳川勢が守る高天神城への武田氏の襲来でした。

武田氏による高天神城攻めについては、二五二年(元亀二年)武田信玄による攻撃が最初で、その攻撃を徳川勢が死守し、武田勢の退却を余儀なくしたとされています。

一方で、近年の研究によればこの時期の信玄による三河・遠江侵攻はなく、それ故に同年の信玄による高天神城攻めもなかったのではないかとという説もあります。

おそらく、高天神城の堅固な要害を比喩する伝承として流布したとも考えられます。

信玄亡き後、信玄の遺志を受け継いだ勝頼が高天神城を攻め、開城させ、武田方の城となりました。

一方、高天神城を失った家康は二五七年(天正六年)高天神城を奪還すべく、大須賀康高に命じて、横須賀城を築かせました。家康は、横須賀城を拠点とし、二五八年(天正九年)、勝頼に奪われた高天神城を攻め、落城させました。

この合戦で、初代城主となった大須賀康高を初め、その配下の者も大いに武功を挙げ、「横須賀党」と呼ばれたそうです。

二五八二年、武田氏が滅び、織田信長が本能寺の変で命を落とすと、豊臣秀吉の手に天下が移る形勢となりました。家康は、秀吉と和睦して、二五八六年(天正十四年)浜松から駿府に居城を移し、二五九〇年(天正十八年)に関東に移り、天下人へと歩んでいきます。

横須賀城の歴史

二五九〇年(天正十八年)の家康の関東移封に伴い、翌年、二代城主の大須賀忠政は上総国に移され、豊臣氏の家臣である渡瀬氏、有馬氏が城主になりました。

二六〇一年(慶長六年)、松平(大須賀)忠政が再び城主になり、以後譜代大名の居城になりました。江戸中期から二八八年(明治元年)まで西尾氏八代の支配が続きました。

徳川家康 (岡崎市所蔵)



DATA	
城の種類	平山城
築城時期	天正2(1574)年～天正6(1578)年頃
築城者	徳川家康
主要城主	大須賀氏
遺構	曲輪、石垣、天守台、土塁、三日月堀、移築現存門

掛川三城略年表

主なできごとく ■掛川城 ■高天神城 ■横須賀城

室町時代	1469~87年頃 (文明年間)	今川氏が朝比奈氏に命じて掛川古城を築く
	1513年 (永正10年)	朝比奈泰能が、掛川城を今の場所に移す これより以前、今川家家臣が高天神城に入る
	1569年 (永祿12年)	徳川家康が、今川氏真、朝比奈泰朝がこもる掛川城を攻める (霧噴き井戸伝説)、半年に及ぶ攻防の末開城
安土桃山時代	1574年 (天正2年)	武田勝頼、高天神城を攻め開城させる
	1578年 (天正6年)	徳川家康が高天神城奪還のため、 横須賀城築城を大須賀康高に命じる
	1580年 (天正8年)	横須賀城が完成 高天神城を守る武田軍が、総攻撃をしかけるが、徳川軍に破れ落城 横須賀城初代城主大須賀康高により撰要寺が創建
	1590年 (天正18年)	山内一豊が、掛川城主になる
	1600年 (慶長5年)	関ヶ原の戦い 山内一豊がいち早く 家康に協力を申出て、掛川城を明け渡す
	1656年 (明暦2年)	掛川城主北条氏重が3代目將軍家光の霊を祭るため、 龍華院大猷院霊屋を建立
江戸時代	1682年 (天和2年)	西尾氏が横須賀城主となる(西尾氏8代186年)
	1707年 (宝永4年)	宝永地震により、横須賀の入江が隆起し港の機能が失われる
	1746年 (延享3年)	太田氏が掛川城主となる(太田氏7代122年)
	1822年 (文政5年)	1818年の掛川大火により焼失した龍華院大猷院霊屋再建
	1854年 (嘉永7年)	安政の大地震により掛川城天守閣、太鼓櫓、御殿、 大手門番所などが倒壊する
	1861年 (万延2年)	掛川城二の丸御殿が再建される
明治	1868年 (明治元年)	掛川藩主太田資美、横須賀藩主西尾忠篤が、 領地を新政府に返す



天守台跡



三日月池



西の丸西側斜面の石段と門跡検出状況



町番所 元は横須賀城の東側にあった建物で、藩の役人が詰めていて、城に出入りする人々を監視していました。



龍眠寺 第13代横須賀城主・西尾忠成から19代城主・忠受まで西尾家7代の墓塔があります。



撰要寺 横須賀城の初代と2代目城主「大須賀氏」の墓があります。